

海上刑務所
見られることによる矯正と管理
Prison maritime
Management and correction due to be seen

, ○椿礼¹, 佐藤信治²
 *Hajime Tsubaki¹, Shinji Sato²

Prison is what some species, such as the world of fantasy that everyday, does not exist in the consciousness at all for people with no involvement. The prison is a world of fantasy, it is a good idea to look both inside and outside the status quo is impossible as a matter of course. Also, is a public facility that is close to the vicinity of the site even not easy. In recent years, the number of repeat offenders is steadily increasing as it is closed in this way, can not be recognized in general if they were affected. It also exceeded 40% in a human are housed in the first offense, the number has a 3000-4000 person. And, the number of offenders to be the mother of this recidivism rate has increased year by year. Therefore, we suggest a reduction in the recidivism rate, we consider that it is necessary to the existence of the prison that is open to the public. By the feel close than conventional thing called prison, you want to measure the inhibition of impulse to the crime by understanding direct the fate of when you have committed a crime, let the expected result.

1. はじめに

刑務所は関わりの無い人間にとって日常、全く意識に存在しないある種、幻想の世界のようなものである。また、刑務所の現状として「110%を超える刑事施設収容率」「年間 3000~4000 人、40%を超える再犯率」「再犯防止に向けた矯正処遇と矯正教育体制の充実」など様々な問題を抱えている。

2. 計画背景

幻想の世界である刑務所は、現状内外共に確認することが当然のように不可能である。また、敷地周辺に近付くことさえ容易ではない公共施設である。このように閉ざされ、一般に認識できないことが影響しているかのように近年、再犯者の数が増加の一途である。その数は初犯で収容されていた人間の中で約 40%をも超え、3000~4000 人となっている。そして、この再犯率の母体となる犯罪者数は年々増加しており、刑事施設としての再犯防止に向けた矯正処遇と矯正教育体制の充実が最重要課題とされている。

そこで、再犯率の低下を示唆し、一般に開かれた刑務所の存在が必要であると考え。刑務所というものを従来より身近に感じれることにより、罪を犯した際の末路を直接的に理解し、結果の予想をさせることで犯罪への衝動の抑止を図りたい。

3. 敷地

3. 1 敷地選定

刑務所は一般に迷惑施設として捉えられ、地域住

民に対して根拠の無い不安感を与えてしまう他、漠然とした治安への悪影響を考えさせてしまう。また、収容されている受刑者数は市の人口に算入され、地方交付税の算定内に入るため歳入増につながる。そのため、刑務所は必然的に地方の郊外に誘致されやすい。

3. 2 計画地

敷地は現在横須賀刑務所がある神奈川県横須賀市である。前述のように郊外の海辺に位置する。迷惑施設として捉えられている刑務所が海辺にあるため、市民はこの海辺を利用しがたいため、解放的な刑務所の計画に適していると考えられる。また、久里浜少年院が隣接しており、いずれ大人となる少年達にも犯罪の抑止につながるものを提示することが可能となる。

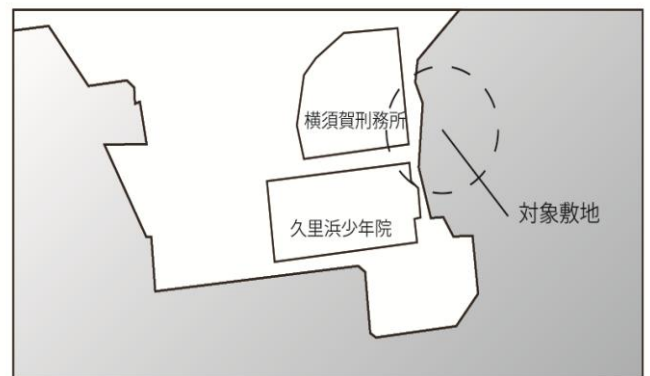


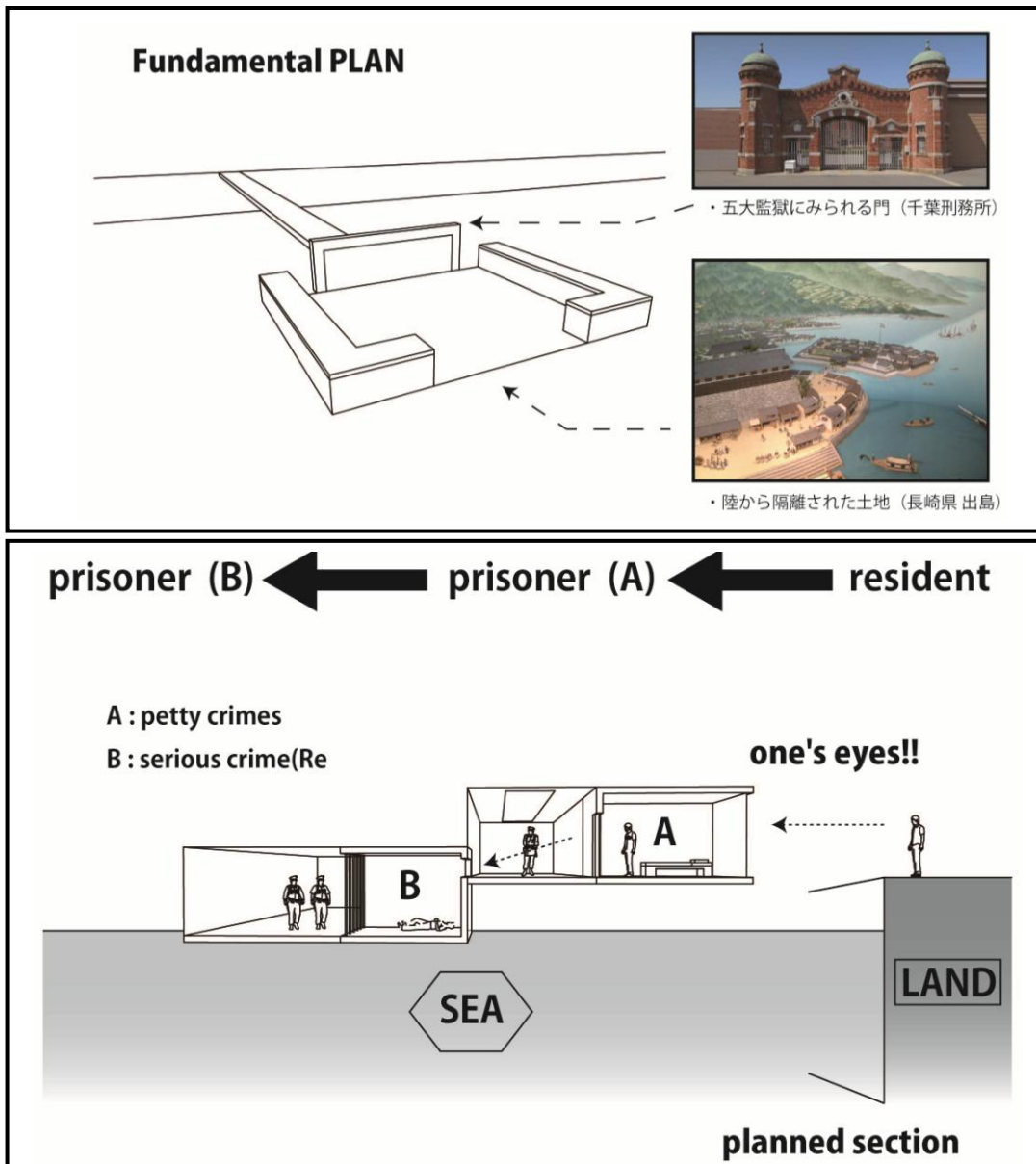
Figure 1. 計画地図

1 : 日本理工・学部・海建、Undergraduate student, Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon Univ
 2 : 日大理工・専任講師・海建、Assistant Prof. Dept. of Oceanic Architecture & Eng. College of Science and Technology, Nihon Univ

4. 基本計画

この刑務所では、見る・みられることによる提案をおこなうため、視線をもっとも重要に考える。その上で、各当事者の位置づけが重要である。市民から受刑者。受刑者の中でも初犯者から再犯者へと一方通行の視線の流れを作る。一般的には別々の施設に収容される初犯者と再犯者を、同施設に収め、再犯者は初犯者からの視線による管理を受ける。初犯者は再犯者の在り方を目の当たりにすることで、再犯時の在り方を目の当たりにすることで再犯の抑止を図る。

初犯者の居室空間を海沿いに配置し、外部に向けてガラス張りにして透過させる。これにより一般市民に室内が解放され、市民は室内を観て内状を知ることができ、同時に受刑者は一般市民の視線による管理を受けます。また、初犯者の室より敷地内側かつ一段低い場所に再犯者の室を配置する。このことにより、初犯者は自身が収容されている室から、再犯者の収容されている室や様子を見ることができ、日々の中で強く印象付けさすことができるようになる。これにより、出所後の再犯を施設内で抑制することが可能となる。



5. 注釈・参考文献

[1] 刑政 平成 25 年 6 月号 p90

[2] 刑政 平成 25 年 6 月号 p94

参考

・刑務所用語辞典